



研究部会報告

● 安全安心学 ●

・第3回

日時：7月20日(金) 19:00~21:00

出席者：11名

場所：日本ユニシス(株)本社6階
プレゼンテーションルーム

テーマと講師：

「迷惑メールの現状と業界動向」

池田 武 (パナソニックネットワークサービス(株))

概要：講演者は、2005年3月に発起人の一人として迷惑メール対策グループ (Japan E-mail Anti-Abuse Group-JEAG) を設立し、現在ボードメンバーである。過去の迷惑メールの国際情勢の推移を概説し、日本から世界に送られる迷惑メールを減らしてきた経緯について解説があった。

● 評価のOR ●

・第22回

日時：9月8日(土) 13:30~16:00

出席者：8名

場所：国際大学203号室
(〒949-7277 新潟県南魚沼市国際町777番地)

テーマと講師：

(1)「距離最小化加法モデル add-min を用いた化学会社
の評価」

上田 徹 (成蹊大学)

概要：加法モデルなどのDEAでは効率的フロンティアまでの最大距離で効率性を評価する。しかし、これは最も実現しにくい目標を探すことになる。本研究では生産可能集合の効率的フロンティアへの距離最小化加法モデルを定式化し、その求解アルゴリズムを提案した。それをを用いて化学会社を評価した結果を報告した。

(2)「The winner is KOBE: Site selection for the next generation super-computing center」

刀根 薫 (政策研究大学院大学)

概要：3月に次期スーパーコンの設置場所が神戸に

決定した。この選定にはAHPとDEAが用いられた。AHPで全ての評価項目の評点を決定し、候補地の有利度と不利度をDEAで算定した。これらの分析結果から、18候補地から5箇所に絞りこまれ、現地調査等の詳細な検討により、立地検討委員会の最終報告として神戸と仙台を推薦されたことが紹介された。

● ORと実践、ソフトコンピューティングとOR ●

日時：9月19日(水) 14:30~17:30

出席者：15名

場所：福井工業大学FUTタワー多目的会議室

テーマと講師：

(1)「製薬企業における合併効果の分析」

宮重 徹也 (富山商船高等専門学校)

概要：新薬の研究開発には多額の研究開発投資が必要であり、この研究開発投資の増大を目指した合併行動が継続している。しかし、新薬の研究開発は、特徴の全く異なる研究と開発という2つのプロセスから構成される。そこで本研究では、このような合併行動が製薬企業の研究成果と開発成果に及ぼす効果について報告した。

(2)「不確実性を考慮した競合施設配置問題に対する意思決定モデルとその解法」

宇野 剛史 (広島大学)

概要：店舗のように他の施設との競合関係を考慮した施設配置問題では、利用者の分布や購買力等の情報を基に利用者を効果的に獲得可能な位置を求める必要がある。このようなデータは不確実性を伴うことから、本研究ではそれらを確率変数として扱うことで問題を定式化し、最適配置を効率的に導出するための解法について報告した。

(3)「リスク・マネジメントを支援するテキストからの課題発見プロセスの研究～製造現場でのイノベーションをめざして～」

村山 秀次郎 (広島経済大学)

概要：製造ミスは製造原価に与える影響が大きく、リスクマネジメントとして捉える企業が増えている。しかし、防止策は事故単位で策定されているため、相対的に事故は減少していない。そこで、本研究では提携企業において提案プロセスを実証し、それにより得られた新しい知見について報告した。